

佐久市埋蔵文化財報告書 第118集

近津遺跡群

ひがしちかつ

東近津遺跡

長野県佐久市近津遺跡群東近津遺跡発掘調査報告書

2004.3

佐 久 市
佐久市教育委員会

佐久市埋蔵文化財報告書 第118集

近津遺跡群

ひがしちかつ

東近津遺跡

長野県佐久市近津遺跡群東近津遺跡発掘調査報告書

2004.3

佐 久 市
佐久市教育委員会



Nトレンチ全景(西より)



Nトレンチ全景(東より)



Sトレンチ全景(東より)



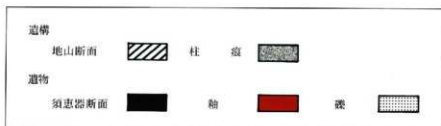
Sトレンチ全景(西より)

例 言

1. 本書は平成15年度の佐久市高速交通課による道水路新設改良事業(近津神社前)に伴う発掘調査の報告書である。
2. 発掘調査は、佐久市教育委員会文化財課が担当した。
3. 本書に掲載した地図は建設省国土地理院発行の地形図(1:25,000)、佐久市発行の基本図(1:2,500)を使用した。
4. 発掘調査は小林眞寿・森泉かよ子が担当し、本書の執筆・編集は森泉が行い、小林眞寿が校閲した。
5. 本遺跡の遺物等の資料は佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

凡 例

1. 遺構の略号は次の通りである。
F-掘立柱建物址、D-土坑、P-単独ピット、M-溝址
2. 遺構番号は発掘調査時の番号を変更しないでそのまま使用しているため欠番がある。
3. 挿图中的の遺構の縮尺は原則として1/80である。異なる場合は図中に明記してある。
4. 挿图中的の遺物の縮尺は1/4である。異なる場合い図中に明記してある。
5. 挿图中的のスクリーントーンは以下のことを示す。



目次

巻頭図版
例言
凡例
目次

第1章 発掘調査の概要	(1)
第1節 調査の経緯	(1)
第2節 調査組織	(2)
第3節 調査日誌	(2)
第4節 検出遺構・遺物の概要	(3)
第II章 遺跡の立地と環境	(4)
第III章 基本層序	(7)
第IV章 遺構と遺物	(8)
第1節 掘立柱建物址	(8)
第2節 土坑	(9)
第3節 単独ピット	(11)
第4節 溝址	(12)
第5節 トレンチ出土遺物	(13)
第V章 まとめ	(13)
引用参考文献	
付表 遺構一覧表	
写真図版	

挿図目次

第1図 近津遺跡群東近津遺跡位置図(1:50,000)	(1)
第2図 東近津遺跡遺構配置図(1:1,000)	(3)
第3図 周辺遺跡分布図(1:25,000)	(5)
第4図 東近津遺跡発掘区設定図(1:5,000)	(6)
第5図 基本層序模式図	(7)
第6図 東近津遺跡全体図(1:300)	(8)
第7図 F1号掘立柱建物址	(8)
第8図 D1～D4号土坑	(9)
第9図 D5・D6号土坑	(10)
第10図 単独ピット	(11)
第11図 M1～M4号溝址	(12)
第12図 トレンチ出土遺物	(13)

第I章 発掘調査の概要

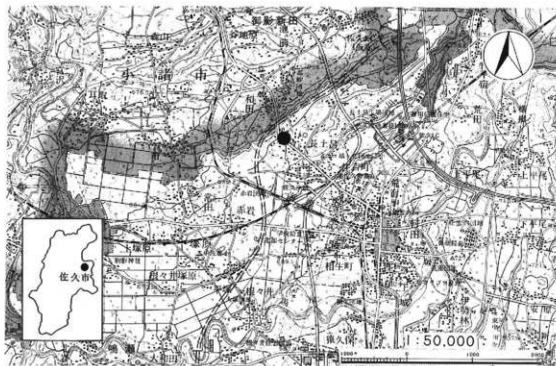
第1節 調査の経緯

東近津遺跡は佐久市の北部、佐久市長土呂にあり、浅間山麓の放射状に延びる「田切り」地形の発達する地点にある。この細長い台地上には多くの遺跡群が存在する。本遺跡近津遺跡群では、国道を挟む北西で昭和46年に西近津遺跡が発掘調査され、弥生時代後期1棟、古墳時代後期3棟の竪穴住居址が検出されている。また田切りをこえてすぐ南では周坊畑遺跡群南近津遺跡が平成9年に調査され、古墳時代後期14棟、奈良時代10棟、平安時代7棟、不明4棟の計35棟の竪穴住居址、掘立柱建物址3棟等が検出されている。

今回、道水路新設改良事業が本地籍で計画され、試掘調査をしたところ、遺構・遺物が検出された。事業によりこれらの遺構・遺物の破壊が余儀なく、発掘調査をする運びとなり、佐久市教育委員会文化財課が調査を実施した。

なお、発掘調査は拡幅部のみで、現道部分は水道、下水道等により既に破壊をうけており、遺構も破壊されていることから調査はしていない。

遺跡名	近津遺跡群東近津(ひがしちかつ)遺跡(略号 NHT)
所在地	佐久市大字長土呂東近津1181-21 外
調査原因者	佐久市高速交通課
開発事業	道水路新設改良事業
発掘調査期間	平成15年11月18日～12月4日
整理調査期間	平成15年12月～平成16年3月
調査面積	134m ² (開発対象面積503.09m ²)



第1図 近津遺跡群東近津遺跡位置図(1:50,000)

第2節 調査組織

調査主体者	佐久市教育委員会教育長 高 柳 勉						
事務局	教育次長	赤羽根 寿文					
	文化財課長	嶋崎 節夫					
	文化財係長	高村 博文					
	文化財係	林 幸彦	三石 宗一	須藤 隆司	小林 眞寿	富沢 一明	
		上原 学	赤羽根太郎	出澤 力			

調査体制

調査担当者	小林 眞寿	森泉 かよ子				
調査副主任	堺 益子					
調査員	小林百合子	林 美智子	佐藤 愛子	清水 幸子	中條 悦子	
	羽田 眞恵	細谷 秀子	柳沢千賀子	山浦 豊子		

第3節 調査日誌

平成15年

11月18日

現道の南側拡幅部に重機を入れ、耕作土の除去を行い、遺構検出を行う。
遺構が検出されたので、発掘調査を開始する。
機材の搬入。



11月19日

現道北側拡幅部に重機を入れ遺構検出を行う。
プラン確認図作成後、23日に近津神社で祭礼があるため北側は埋戻す。



11月24日

重機により、北側拡幅部再度表土剥ぎ。

11月28日

南側拡幅部調査終了。

11月29日

南側拡幅部を重機により埋め戻す。

12月3日

北側拡幅部の調査終了。機材撤収。



12月4日

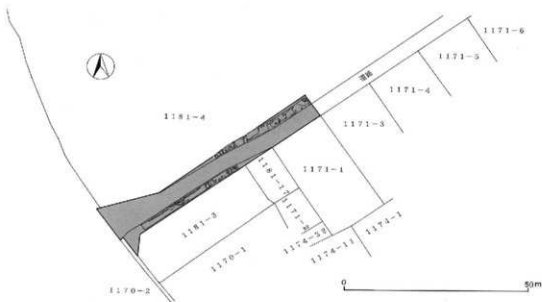
北側拡幅部を重機で埋め戻す。

12月4日～平成16年3月31日

室内にて、遺物洗浄・遺物注記・遺物実測・実測図トレース・図面修正・報告書編集作業を行い、報告書を発行する。

第4節 検出遺構・遺物の概要

遺 構		遺 物		
竪穴住居址	なし	土器	石器	金属器
竪立柱建物址	1棟	土師器	石鏃片	鉄製釘
単独ピット	29個	須恵器	編物石	鉄製鎌
土 坑	6基	陶磁器	スリ石	
溝	4本		砥 石	
			石 盤	



第2図 東近津遺跡遺構配置図(1:1,000)

竪立柱建物址・ピット群・土坑・溝址が検出されたが、住居址はなかった。時代がわかる遺構は少なく、D1号土坑は土師質面が出し、近世であろうか。D6号土坑からは凝灰岩製の砥石などから奈良・平安時代頃と推測される。M1号溝址は上限はわからないが下限は磁器などから近代まで使用されていた道路で、今の舗装された道路の前に使用されていた道であろう。

遺物は古墳時代後期の土師器甕片・鉢片、奈良・平安の須恵器甕・杯片を出土している。本遺跡では竪穴住居址はなかったが、周囲にこれらの時代の竪穴住居址があることは土器片から推測される。

第4図に周辺遺跡の発掘調査による竪穴住居址の分布を示したが、近津神社周辺の北近津・西近津遺跡では古墳時代中期の竪穴住居址があり、集落をなしていた。南の岡防畑遺跡群では古墳中期の竪穴住居址はなく、古墳後期後半～奈良時代の住居址が中心となっている。近津神社付近は古墳時代中期5C頃に集落がみられ、その南の周坊畑遺跡群では7～8C頃の集落がみられる。近津神社付近は古東山道通過地点諸説の中の一つとされ、(井出正義、1995『佐久市志 歴史編(一)「東山道と佐久」』)、古墳から奈良時代の集落がみられることは注目される。

また、本遺跡の西、西近津遺跡から弥生後期の住居址が検出されており、南の森下遺跡に検出された弥生時代後期の集落が近津神社付近まで広がっていた。

第Ⅱ章 遺跡の立地と環境

東近津遺跡は佐久市の北部、小諸市との境にあり、浅間第1軽石流(P1)が地盤をなしている。田切り地形が発達し、東近津遺跡はその台地上の遺跡で近津遺跡群の一つである。近津神社の南にあり、鬱蒼たる松林に隣接している。台地の南辺にあたり、すぐ低い田切りに接している。小諸市境となる大川切りは「湧玉用水」ともよばれ、御代田町湧玉からの湧水を流下させており、その周辺に水田耕地村落が早くから発達したところである。この田切りと本遺跡の台地の南北間は約150m程しかなく幅狭い台地となっている。しかし、南の山切りは浅く、規模などから古代においては、近津遺跡群、西近津遺跡群、周防畑遺跡群は同一の台地と考えられる。

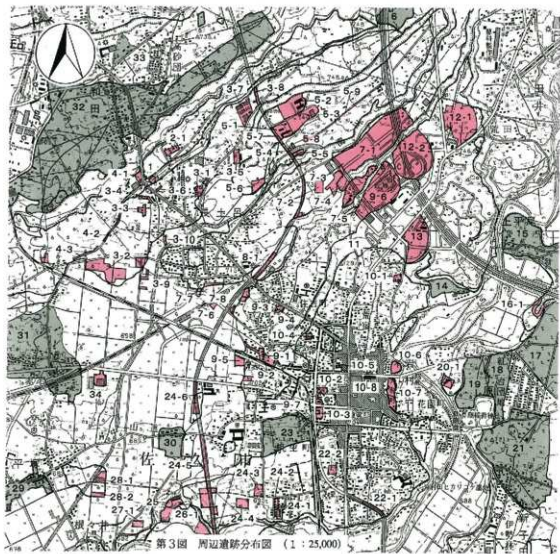
周囲の発掘調査状況を見ると、昭和46年に国道を挟んですぐ西の4-1西近津遺跡群西近津遺跡と150m程北東の2-1近津遺跡群北近津遺跡が発掘調査されている。西近津遺跡では弥生後期1棟と古墳時代中期1棟、古墳時代後期2棟の竪穴住居址と北宋銭を伴う中世以降の溝址8本が検出されている。北近津遺跡では古墳時代中期3棟、古墳時代後期1棟の竪穴住居址、外に時期・性格不明の土坑3基と単独ピットが検出されている。隣接して近津古墳が確認されている。

西近津遺跡群の南辺を昭和63年に4-2森下遺跡、平成2年に4-3三貫畑遺跡を発掘調査している。弥生時代後期、古墳時代後葉から奈良・平安時代の住居址が調査されている。浅い山切りを挟んで南の台地、周防畑遺跡群では、昭和54・55年に周防畑A遺跡・周防畑B遺跡、昭和58・平成3年若宮遺跡、平成9年に南近津遺跡が調査されている。若宮遺跡では古墳時代後期～平安時代、ことに古墳後期末～奈良時代の住居址が検出されている。南近津遺跡では、古墳時代後期～奈良を主体として平安時代の竪穴住居址が密集して検出されている。弥生時代後期の土壌層と思われる土層1基もある。周囲を縦観してみると弥生時代後期の竪穴住居址、古墳時代中期・後期の竪穴住居址、奈良・平安時代竪穴住居址、中世以降の溝址などがみられ、弥生時代後期、古墳時代中期から後期、奈良・平安時代・中世の遺構が分布し、集落を形成して様子がわかってきている。

第1表 周辺遺跡一覧表

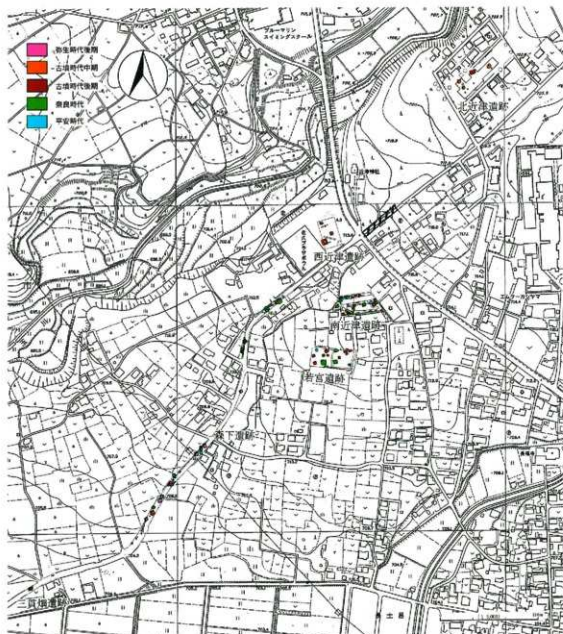
No	遺跡名	所在地	調査年度	検出建物・出土遺物等
1	近津遺跡群東近津遺跡	長土呂字東近津	平成15年度	竪立柱建物址1、土坑6、溝4 本流置
2-1	近津遺跡群北近津遺跡	長土呂字北近津	昭和46年度	住居址13、土坑7
3-1	周防畑遺跡群周防畑A遺跡	長土呂字南下東	昭和54年度	住居址5、溝3
3-2	周防畑遺跡群周防畑B遺跡	長土呂字大田田下中田	昭和54・55年度	住居址41、溝渠2、土坑17
3-3	周防畑遺跡群野宮遺跡Ⅰ・Ⅱ	長土呂字野宮	昭和58・平成2年度	住居址16(南地・平野)
3-4	周防畑遺跡群南近津遺跡	長土呂字南近津	平成9年度	住居址35、竪立柱建物址3、土坑1、溝3
3-5	周防畑遺跡群入高山遺跡	長土呂字入高山	平成11年度	住居址6、竪立柱建物址A、溝渠1、溝3
3-6	周防畑遺跡群Ⅰ	長土呂字近津	平成4年度	検出遺構なし
3-7	周防畑遺跡群Ⅱ	長土呂字入高山	平成7年度	検出遺構なし
3-8	周防畑遺跡群中田田遺跡Ⅰ・Ⅱ	長土呂字中田	平成11・平成12年度	住居址41、竪立柱建物址1、土坑22、溝6
3-9	周防畑遺跡群北近津遺跡Ⅰ・Ⅱ	長土呂字北近	平成11・平成12年度	住居址17、竪穴建物址1、土坑10、溝9
3-10	周防畑遺跡Ⅰ	長土呂字向野	平成3年度	検出遺構なし
4-1	西近津遺跡群西近津遺跡	長土呂字西近津	昭和46年度	住居址4
4-2	西近津遺跡群森下遺跡	長土呂字森下	昭和63年度	住居址20、竪立柱建物址1、土坑20、溝6
4-3	西近津遺跡群三貫畑遺跡	長土呂字三貫畑	平成2年度	住居址4
5-1	芝宮遺跡群芝宮遺跡 第一次	長土呂字北中津	昭和54年度	土坑7、溝2
5-2	芝宮遺跡群芝宮遺跡 第二次	長土呂字北中津	昭和55年度	土坑7、溝2
5-3	芝宮遺跡群芝宮遺跡 第三次	長土呂字北中津	昭和57年度	土坑7、溝2
5-4	芝宮遺跡群下芝宮Ⅰ～Ⅳ	長土呂字下芝宮	昭和62・昭和63・平成2年度	住居址9、竪立柱建物址6、土坑13、溝13
5-5	芝宮遺跡群上中津・南下中津	長土呂字上中津・南下中津	昭和63・平成5年度	住居址15、竪穴建物址3、竪立柱建物址5、土坑1、溝2
5-6	芝宮遺跡群上山遺跡Ⅰ・Ⅱ	長土呂字上山	平成5・平成6年度	住居址31、竪立柱建物址15、土坑27、溝3
5-7	芝宮遺跡群上山遺跡Ⅰ・Ⅱ	長土呂字上山	平成1・平成2年度	住居址3、竪立柱建物址5、溝1
5-8	芝宮遺跡群上芝宮遺跡Ⅰ～Ⅳ	長土呂字上芝宮	平成4～平成9年度	住居址16、竪立柱建物址3、土坑6
5-9	芝宮遺跡群下野津遺跡Ⅰ～Ⅲ	小田村	平成6～平成11年度	住居址100、竪穴建物址2、竪立柱建物址41、土坑4、溝5
6	皇朝城遺跡	小田村字皇朝城		縄文～平安
7-1	長土呂遺跡群皇朝城遺跡Ⅰ・Ⅱ～Ⅳ・Ⅵ	長土呂字上皇朝・新皇	平成11～平成7年度	住居址975、竪立柱建物址850、土坑435、溝77
7-2	長土呂遺跡群下皇朝遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ	長土呂字下皇朝	昭和63・平成4・平成11年度	住居址55、竪穴建物址2、竪立柱建物址40、土坑4、溝13
7-3	長土呂遺跡群上皇朝遺跡Ⅰ	長土呂字上皇朝	昭和63年度	住居址47、竪穴建物址2、竪立柱建物址21、土坑2、溝12
7-4	長土呂遺跡群皇朝城遺跡Ⅴ	長土呂字上皇朝	平成7年度	住居址35、竪立柱建物址30、土坑12、溝8

No	道名	所在地	設置年度	線出道路・点土道内容
7-5	長土高道線野見新道線 I・II・III・IV・V	長土高字新屋・下六座	平成3～平成5年度	住居址20、線立柱線跡址2、土坑34、溝13
7-6	長土高道線野下谷母道線	長土高字下谷母	平成4年度	住居址6、溝5
7-7	長土高道線村上村道線	長土高字上村	平成7年度	土坑21、溝3
7-8	長土高道線村上谷道線	長土高字上村	平成8年度	土坑25、溝3
8-1	下関市道線下関河内道線	長土高字下関川	平成1年度	線出道路等なし
9-1	能登川道線能登川北道線 I・II・III・IV	能登川字野田道外	昭和29～平成11～平成13年度	住居址34、線立柱線跡址21、溝溝17、土坑7、溝6
9-2	能登川道線能登川北道線 II・V	能登川字野田道外	平成9～平成11・平成14年度	住居址13、線立柱線跡址1、溝溝11、土坑10
9-3	能登川道線能登川南道線 I～III	能登川字野田	平成9～平成13年度	住居址17、線立柱線跡址1、溝溝2、土坑36、溝6
9-4	能登川道線能登川南道線 II	能登川字上道橋	昭和60年度	住居址2、溝2、溝跡
9-5	能登川道線能登川南道線 I～III	能登川字清平田	昭和53～平成10年度	住居址20、溝2
9-6	能登川道線能登川南道線 I・II・III・IV	能登川字上久保田	平成1～平成6年度	住居址45、線立柱線跡址48、土坑19、溝19、溝跡1
9-7	能登川道線能登川南道線 II	能登川字石	昭和62年度	溝跡(能登川南道線1)
10-1	能登川道線能登川西道線 I	能登川字六座	昭和65年度	溝
10-2	能登川道線能登川西道線 I～III	能登川字内道橋	平成1・2・12年度	住居址10、能登川道線跡、能登川道線跡、土坑21
10-3	能登川道線能登川西道線 I	能登川字柳定	平成10年度	住居址1、能登川道線跡33、線立柱線跡址2、土坑211、溝23、溝溝1、能登川道線跡7
10-4	能登川道線能登川西道線 I	能登川字上木野	平成13年度	住居址1、線立柱線跡址1、土坑1、溝跡1
10-5	能登川道線能登川西道線 I	能登川字中野	平成9年度	住居址1、能登川道線跡、土坑14、溝跡
10-6	能登川道線能登川西道線 I	能登川字吉成	昭和54年度	線立柱線跡址1、土坑
10-7	能登川道線能登川西道線 I	能登川字吉成	昭和55～59年度	住居址15、能登川道線跡54、線立柱線跡址2、土坑206
10-8	能登川道線能登川西道線 I～IV	能登川字吉成	昭和29～平成1年度	溝1
11	中久保川道線	能登川字中久保田		溝等～平成



第2表 周辺遺跡整穴住居址遺構一覧

遺跡名	弥生後期	古墳中期	古墳後期	奈良	平安	不明	
北近津遺跡		3	1				13棟の内4棟調査
西近津遺跡	1	1	2				
南近津遺跡			14	10	7	4	
若宮遺跡			9	4	2		
森下遺跡	5		3	8	4		
三貫畑遺跡	2			2			

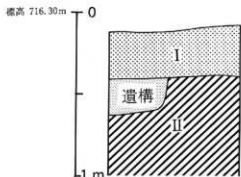


第4図 東近津遺跡発掘区設定図(1:5,000)

No	遺跡名	所在地	調査年度	出土遺構・出土遺物等
11-1	船毛海遺跡群船渠跡部跡	小瀬川字西瀬部	平成8・平成9年度	住居址10、厨子跡遺構12、厨子付建構址4、土坑99号、溝跡
11-2	船毛海遺跡群西船渠跡部跡・井	船毛川字西瀬部	平成3・平成5年度	竪立柱礎構址7、土坑1、河川跡1
13	西舟倉遺跡	船毛川字西舟倉	平成14年度	住居址、溝
14	上瀬子遺跡	船毛川字上瀬子	平成	平成
15	東村遺跡群	上平野字東村		弥生～平安
16-1	船毛久保遺跡群・西久保B	上平野字西久保	昭和62年度	住居址7、厨子跡遺構1、土坑4、溝4
17	西久保遺跡群	上平野字西久保		縄文～平安
16	横瀬遺跡	笠原字横瀬		平安
19	上小平遺跡	船毛川字上小平		平安
20-1	上小平遺跡	船毛川字上小平	昭和55年度	住居址6、土坑14、溝7、溝跡7
21	北塚遺跡群	笠原字北塚		平安
22-1	上の河原遺跡群上の河原遺跡	船毛川字上の河原	昭和48年度	住居址49、土坑131、溝7、野溝遺構1
22-2	上の河原遺跡群百景遺跡	船毛川字百景	平成9年度	住居址1、厨子跡遺構27、溝3、土坑跡4
23	栗の丘遺跡	船毛川字栗の丘		弥生～中世
24-1	一本杉遺跡群東一本杉遺跡	船毛川字東一本杉	昭和43年度	住居址5
24-2	一本杉遺跡群東大門遺跡	船毛川字東大門	平成1年度	溝
24-3	一本杉遺跡群北一本杉遺跡	船毛川字北一本杉	昭和47年度	住居址16、土坑51
24-4	一本杉遺跡群西一本杉遺跡1～既	船毛川字西一本杉	平成3～平成14年度	住居址405、竪立柱礎構1、土坑101、溝68、段溝4
24-5	一本杉遺跡群西一本杉遺跡1・B	船毛川字西一本杉	平成8～平成10年度	水田跡
24-6	一本杉遺跡群西一本杉遺跡1～B	船毛川字西一本杉	平成8～平成10年度	住居址17、竪立柱礎構址1、土坑2、溝5
25	北原の久保遺跡群・東部	船毛川字北原の久保	昭和44・45・47・50年度	住居址158、河溝基、水田遺跡跡
26-1	北原の久保遺跡群中西の久保遺跡1～西	船毛川字中西の久保	平成4・7・9・10年度	住居址91、竪立柱礎構址15、土坑4、溝7
27-1	東原遺跡群止雲の遺跡	船毛川字止雲田	平成9年度	住居址43、竪立柱礎構址2、土坑17、溝7、段溝3、段溝2
28-1	西一本杉遺跡群西一本杉遺跡	船毛川字西一本杉	昭和48年度	住居址11、竪立柱礎構1、土坑1、溝6、建基
28-2	西一本杉遺跡群船渠跡部跡	船毛川字船渠	昭和48年度	溝1 本跡1 (近代)
29	船毛川敷水遺跡	船毛川字敷水		平安
30	上瀬子遺跡	船毛川字上瀬子		弥生～平安
31	笠原遺跡群敷水遺跡群	笠原字敷水		弥生～平安
32	船毛遺跡群船	小瀬川字船渠		縄文～平安
33	入地遺跡群	小瀬川字入地		古墳～平安
34	高り遺跡	船毛川字高り・丸山	平成4年	水田跡・溝

第Ⅲ章 基本層序

近津遺跡群東近津遺跡の立地は浅間第1軽石流が基盤をなしている。耕作土は全般に浅く、既に地盤である浅間第1軽石流が露出している所もある。遺構覆土は、暗褐色土が大平である。

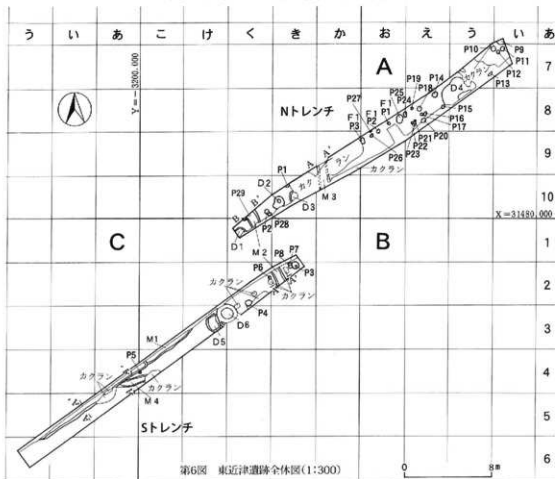


第5図 基本層序模式図

第Ⅰ層 暗褐色土層(10Y R3/3)
耕作土

第Ⅱ層 明黄褐色土層(10Y R6/8)
(浅間第1軽石流)

第IV章 遺構と遺物



第6図 東近津遺跡全体図(1:300)

第1節 掘立柱建物址

1) F1号掘立柱建物址(第7図4版→四)



第3表 F1号掘立柱建物址出土遺物一覧表 () 推定、< > 残照、法原は上から(注)・直径・高さ

番号	遺種	法原	形状・製法・位置		出土位置	出土状況
			注	直径		
F1-4	須恵器	-	1. 口縁部コナテ→内面中底文(10YR3/3)	口縁部コナテ→内面中底文(10YR3/3)	掘立柱建物址	須恵器土層・灰層・瓦層から出土。須恵器土層・灰層・瓦層を貫通して出土。

A58グリットにあり、北側は調査区域外であるため、規模・形態はわからない。東西2.76m、東西の柱間は異なり、1.6と1.16mを測る。柱穴の規模は短径32～36cm、深さ48～60cmを測り深い。P1では明確な柱痕が残り、四方はほとんど地肌と変わらないロームがみられた。P3上面より、須恵器破片が出土している。

須恵器は外面に平行タタキメ、内面に同心円のあて具痕を残している。これのみで時期は推定できないが奈良時代以降の遺構であろうか。

第2節 土坑

1) D1号土坑(第8図,図版一・四)

Bく1グリットにあり、西と南はカクランにより壊され、規模・形態は不明である。北東隅が残存し隅丸方形を呈するものと推定される。深さは14cmで浅く、底面は平坦である。覆土は暗褐色土である。土師質土が出土している。

土師質土は口縁部から底部が内湾気味である。時期は破片で全器形が明らかでないが近世であろうか。

2) D2号土坑(第8図,図版一・四)

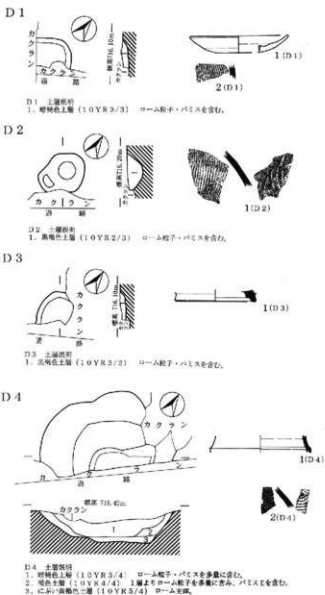
Aき10グリットにあり、南側一部をカクランに壊される。楕円形を呈しテラスをもつ。長軸120cm、短軸100cm、深さ38cmを測る。覆土は黒褐色土層である。遺物は須恵器破片が出土する。

3) D3号土坑(第8図,図版一・四)

Aき10グリットにあり、南と東をカクランに壊され、形態・規模は不明である。残存部からは円形を呈すと推定される。深さ17cmを測り、底面は平坦である。出土遺物には須恵器高台付杯の高台部がある。

4) D4号土坑(第8図,図版二・四)

Aう7グリットにあり、カクランに南側を切られ全容は明らかでない。東西324cm、深さ81cmを測る。円形を呈すが、底面形は方形基調である。覆土は暗褐色土層である。出土遺物は須恵器壺、須恵器甕、土師器鉢(内面黒色処理)、武蔵燧片の小破片がある。



第8図 D1～D4号土坑

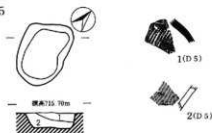
5) D5号土坑(第9図,図版二・四)

Bけ3グリットにあり、D6と東でわずかに重複し切る。長軸156cm、短軸116cm、深さ44cmを測り、楕円形を呈す。覆土は褐色土である。出土遺物には須恵器破片と、鉄錫箔の破片がある。錫箔破片は上面のカクランから出土し近代のものである。

6) D6号土坑(第9図,図版二・三・四)

Bく2グリットあり、南端は調査区外で一部未調査である。径194cm、深さ90cmの円形土坑である。覆土は暗褐色土である。底面は平坦で、南壁中位より、砥石が出土している。砥石は凝灰岩製で、スリ面と歯状の使用痕が残る。

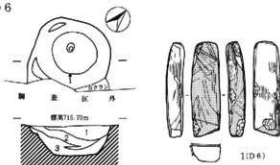
D 5



D 5 土層説明

1. 褐色土層 (10YR 4/4) ローム粒子を少量に含み、バクシを含む。
2. 黄褐色土層 (10YR 5/6) ローム土層。

D 6



D 6 土層説明

1. 暗褐色土層 (10YR 3/4) ローム粒子を少量に含み、バクシを含む。
2. 褐色土層 (10YR 4/4) ローム土層に褐色土を含む。
3. 濃い黄褐色土層 (10YR 5/4) ローム土層。

第9図 D5・D6号土坑

0 (1:4) 100m
0 (1:80) 2m

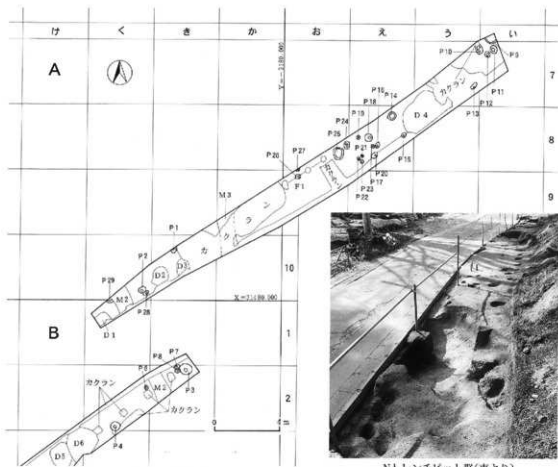
第4表 土坑出土遺物一覧表

() 鑑定、(<) 複製、括弧は上から口径・長さ・重量

坑名	遺物	数量	形状・材質			出土位置・他	出土位置
			長	径	厚		
D1-1	赤石心付 磁	(112) (5.6) 2.1	ロクロナデ 浅黄磁 (10YR8/3)	ロクロナデ・浅部研り直し 浅黄磁 (10YR8/3)	磁器、径1cm以下の石片・赤磁粘土・黒色粘土を 含む。 口縁片、断面1/2 破片	D1	
D1-2	須恵器 破	—	ナデ 灰 (2.5YR/1)	タタキ 灰 (2.5Y6/1)	須石瓦、断面1/2 破片	D1	
D2-1	須恵器 破	—	中灰 灰 (2N5/2)	タタキ 灰 (2N5/2)	須石瓦・径1以下の片石・石破を含む。 破片	D2	
D3-1	須恵器 高台付杯	(10.0) (1.4)	ロクロナデ 灰 (2.5YR/1)	ロクロナデ・浅部研り直し・ 片石付 —2.5mm (7.5YR2/3)	須石瓦・径1以下の片石を含む。 断面1/2 破片	D3	
D4-1	須恵器 破	—	ロクロナデ オリブ灰 (2.5G5/1)	ロクロナデ 灰 (2N5/2)	須石瓦・断面1/2以下を破片を含む。 破片 外面自然付着	D4	
D4-2	須恵器 破	2.1	中灰 灰 (2N5/2)	ロクロナデ 灰 (2N5/2)	須石瓦・断面1/2を含む。 破片	D4	
D5-1	須恵器 破	—	ロクロナデ 灰 (2.5Y6/2)	タタキ 黄灰 (2.5Y6/1)	須石瓦・断面1/2を含む。 破片	D5	
D5-2	鉄錫 箔	—	横切 —2.5mm (2.5YR5/4)	須恵 器赤土 (2.5YR3/3)	鉄錫 箔片	D5カクラン	
部名	種類	長さ (cm)	径 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考	出土位置
D5-1	砥石	11.6	3.3	2.1	39.3	凝灰岩、入り縁	No.1

第3節 単独ビット(第10図)

本遺跡から29個のビットが検出された。柱痕が観察できないものは木の根の可能性もあり、柱穴とはいえないものも含む。



第10図 単独ビット

NTレンチビット群(東より)



単独ビットP3(北より)



NTレンチビット群P14~P25(北より)

第4節 溝址

1) M1号溝址(第11図,図版三・四)

Bf3～Cウ6グリットにあり、現道の南側に沿って東西に走る溝である。底面は非常に縮まり、底面上面は砂粒層がのっていた。現副装道路前の道路跡である。

出土遺物は奈良～平安の高台付杯片と近代のガラス玉、製品不明の磁器片が出土する。

2) M2号溝址(第11図,図版三・四)

調査区中央で南北に走る溝である。幅80～115cm深さ8～19cmを測る。覆土は暗褐色土で、流路の痕跡はない。

出土遺物は須恵器杯、須恵器裏片がある。須恵器杯は底部回転糸切り離してある。奈良・平安時代以降の溝であろう。

3) M3号溝址(第11図,図版三・四)

Aカ9～Aカ10グリットにあり、カクランに大半を壊される。セクション面で幅104cm、深さ21～24cmを測る。覆土は黒褐色土である。出土遺物はない。

4) M4号溝址(第11図,図版四)

Bc4～Cア4グリットにあり、M1に切られ、カクランに壊される。幅58～78cm、深さ6～16cmを測る。覆土は暗褐色土である。流路の痕跡はない。出土遺物はない。



第11図 M1～M4号溝址

第5表 溝址出土遺物一覧表

番号	部材	法量	東・西・南・北			出土位置
			西	南	東	
M1-1	須恵器 高台付杯	(10.4) (0.7)	ロクロ子 裏片	ロクロ子・底部切り離し→ 裏片	埋石・径1mm以下の長石・黒色砂子を含む。 高7/16	M1
M1-2	須恵器 高付杯	(0.7)	高台 (2.5Y3/1) 片欠 (2.5Y8/1)	ロクロ子 裏片 (2.5Y8/1)	磁器 裏片を含む。 高付→一部残存	M1
M1-3	須恵器 高付杯	(0.7)	ロクロ子 片 (2.5Y6/1)	ロクロ子 明灰 (10YR5/1)	磁器 裏片・磁器片を含む。 高付→一部残存	M1
M1-4	ガラス 玉はじき	4.2 1.0			空形	No.1
M1-5	磁器	1.1	底片 (5m)	底片 (5m)	底片・底片・底片・底片	出土位置
M2-1	須恵器 杯	(8.8) (1.1)	ロクロ子 片欠 (2.5Y3/2)	ロクロ子・底部切り離し後 片欠(へら少クズ) 片欠 (2.5Y7/3)	埋石・径1mm以下の長石・黒色砂子を含む。 高1.8	M2
M2-2	須恵器 杯	(1.1)	ロクロ子 片欠 (10YR6/2)	ロクロ子 片欠 (10YR6/2)	磁器 裏片を含む。 1.6高	M2
M2-3	須恵器 裏片	(1.1)	不明 (底層のため)	ガラス玉 片 (N5/5)	埋石・径1mmの長石・黒色砂子を含む。 磁片	M2

第5節 トレンチ出土遺物(第12図・図版四)

検出及びカクランより出土した遺物を掲載した。古墳時代後期土師器類、奈良～平安時代の須恵器鉢・杯・甕、土師器杯片が出土している。また現舗装道路に沿うカクランからは近代の陶磁器・鉄製品が出土した。



第12図 トレンチ出土遺物

第6表 トレンチ出土遺物一覧表 () 産地・< > 産地、括弧は上から1層目・2層目・器底

番号	品名	法原	成		重		形状	産地	出土位置	出土状況
			高	径	重	容				
1	須恵器 鉢	(21.0)	13.9(1)ナデ 底 (5Y6/1)				白クワナデ 底 (N4/0)	鎌倉系・岡山系・厚1cm以下の須恵器片含む。 T層底片		Nトレ・検出
2	須恵器 杯	(2.1)	白クワナデ 底 (N5/0)				白クワナデ 底 (N5/0)	鎌倉系・岡山系等。 T層底片 自然焼成片		Nトレ・検出
3	須恵器 甕	(20.6) (1.8)	白クワナデ に赤・黄砂 (10YR2/4)				白クワナデ に赤・黄砂 (10YR7/3)	鎌倉系・厚1cm以下の須恵器片含む。 T層底片		Nトレ
4	須恵器 杯	-	白クワナデ (厚1) 後ナデ 底片等 (10YR4/2)				平安系 陶片 (10YR6/1)	鎌倉系・厚1cm以下の須恵器片含む。 陶片		Nトレ・カクラン
5	陶片	(1.6)	-				色黒	須恵器		出土位置
6	陶片	(14.4)	-				(厚) 白	須恵器片		Nトレ・カクラン
7	陶片	-	1.2 (cm)	0.9 (cm)	0.3 (g)			須恵器		Nトレ・カクラン
8	鉄製釘	(4.3)	0.9	0.9	0.5			20号	鎌倉	Nトレ・検出・カクラン
9	石皿	(3.9)	2.8	0.8	0.5			3号		Nトレ・検出・カクラン
								3号	入り皿	Nトレ・検出・カクラン

第V章 まとめ

本遺跡では掘立柱建物址、ピット群、土坑、溝址が検出された。M1号溝址が道路跡で近代、D1号土坑が近世であろうと推定できる。他の遺構の時代は明確ではない。しかしながら第3図に示したように周辺では弥生時代後期から平安時代までの竪穴住居址が検出されている。ことに隣接する、北近津遺跡と西近津遺跡では古墳時代中期の竪穴住居址が検出されている。本遺跡でも古墳時代後期から奈良・平安時代の土器片が出土しており、近接して竪穴住居址が存在することが想定される。

引用参考文献

- 1971 佐久市教育委員会「佐久市長上呂西近津遺跡緊急発掘調査概報」
- 1972 佐久市教育委員会「北近津・I版」
- 1984 佐久市教育委員会「若宮遺跡」(周防畑遺跡群)
- 1989 佐久埋蔵文化財センター「森下」
- 1992 佐久埋蔵文化財センター「三貫畑」
- 1992 佐久埋蔵文化財センター「周防畑遺跡群若宮遺跡II」
- 1999 佐久市教育委員会「南近津遺跡」

掘立柱建物址

遺構名	様式	検出位置	桁行×梁間 (間)	桁行×梁間 (m)	桁行柱間 (m)	梁間柱間 (m)	長軸方位	柱穴規模 短径 (cm) 深さ (cm)	備考
F1	—	Aお8	1×—	2.76×—	1.6・1.16	—	N-59°・E	32~36 48~60	北側調査区外

土坑

遺構名	検出位置	平面形	長軸長 (cm)	短軸長 (cm)	深さ (cm)	長軸方位	備考
D1	Bく1	—	<88>	<70>	14	N 57°・E	内側・南側カクランに切られる。
D2	Aき10	楕円形	120	100	38	N・29°・E	カクランに切られる。
D3	Aき10	—	<88>	<76>	17	N・5°・W	カクランに切られる。
D4	Aう7	—	324	<186>	81	N 60°・E	カクランに切られる。
D5	Bけ3	楕円形	156	116	44	N・25°・W	D6を切る。
D6	Bく2	円形	194	<62>	90	N・82°・E	カクランに切られる。D5に切られる。

溝址

遺構名	検出位置	長さ (m)	幅 (m)	深さ (cm)	備考
M1	Bけ3~Cう6	<17.85>	<0.35> ~ <0.7>	3~13	M4を切る。カクランに切られる。
M2	Aく10~Bき2	<7.20>	0.8~1.15	8~19	P29を切る。カクランに切られる。
M3	Aか9~Aか10	<1.80>	1.04	21~24	21~24
M4	Bこ4~Cあ4	<2.25>	0.58~0.78	6~16	M1、カクランに切られる。

単独ピット

No.	位置	SN (cm) 長径×短径×深さ	平面形	覆土	層位	No.	位置	規模 (cm) 長径×短径×深さ	平面形	覆土	層位	備考
P1	Aお10	36×26×37	楕円形	1. 灰土層 (10Y R3/3) 2. 灰土層 (10Y R3/4)	法面調査区外	P14	Aお8	68×44×11	円形	1. 灰土層 (10Y R3/4) 2. 灰土層 (10Y R4/4)	10Y R3/4	点検カクランに切られる。
P2	Aく20	40×36×14	円形	1. 灰土層 (10Y R3/4)		P15	Aお8	30×28×30	円形	1. 灰土層 (10Y R3/4) 2. 灰土層 (10Y R4/4)	10Y R3/4	
P3	Bお2	74×64×22	楕円形	1. 灰土層 (10Y R3/2) 2. 灰土層 (10Y R3/4)		P16	Aお8	40×28×33	楕円形	1. 灰土層 (10Y R3/3)	10Y R3/3	
P4	Bく2	60×52×23	円形	1. 灰土層 (10Y R2/3) 2. 灰土層 (10Y R3/3)	カクランに切られる。	P17	Aお8	26×24×40	円形	1. 灰土層 (10Y R2/3)	10Y R2/3	
P5	Cか4	22×22×15	円形	1. 灰土層 (10Y R3/4) 2. 灰土層 (10Y R4/4)		P18	Aお8	40×44×18	円形	1. 灰土層 (10Y R3/4)	10Y R3/4	
P6	Bく2	26×24×9	円形	1. 灰土層 (10Y R3/4)		P19	Aお8	22×22×20	円形	1. 灰土層 (10Y R3/3)	10Y R3/3	
P7	Bお2	38×24×8	楕円形	1. 灰土層 (10Y R3/4)	P8と重なっている	P20	Aお8	46×36×47	楕円形	1. 灰土層 (10Y R2/3)	10Y R2/3	点検カクランに切られる。
P8	Bお2	36×26×8	楕円形	1. 灰土層 (10Y R3/4)	P7と重なっている	P21	Aお8	19×18×10	円形	1. 灰土層 (10Y R3/4)	10Y R3/4	
P9	Aお6	64×52×17	—	1. 灰土層 (10Y R3/3) 2. 灰土層 (10Y R4/4)	法面調査区外	P22	Aお8	28×18×12	円形	1. 灰土層 (10Y R3/4)	10Y R3/4	
P10	Aお7	48×40×41	円形	1. 灰土層 (10Y R3/4) 2. 灰土層 (10Y R4/4)	法面調査区外	P23	Aお8	22×22×23	円形	1. 灰土層 (10Y R3/4)	10Y R3/4	
P11	Aお7	45×39×12	楕円形	1. 灰土層 (10Y R3/4)		P24	Aお8	48×36×23	楕円形	1. 灰土層 (10Y R3/4)	10Y R3/4	
P12	Aお7	32×26×13	円形	1. 灰土層 (10Y R3/4)		P25	Aお8	36×30×16	楕円形	1. 灰土層 (10Y R3/3)	10Y R3/3	
P13	Aお7	50×18×27	楕円形	1. 灰土層 (10Y R4/4)	カクランに切られる。	P26	Aお8	34×26×21	楕円形	1. 灰土層 (10Y R3/4)	10Y R3/4	
						P27	Aお8	28×16×12	円形	1. 灰土層 (10Y R4/4)	10Y R4/4	法面調査区外
						P28	Aく10	28×26×10	楕円形	1. 灰土層 (10Y R4/4)	10Y R4/4	
						P29	Aく10	44×52×19	楕円形	1. 灰土層 (10Y R4/4)	10Y R4/4	M2に切られる。法面調査区外



Sトレンチ完掘 (東より)



F1号掘立柱建物址 (東より)



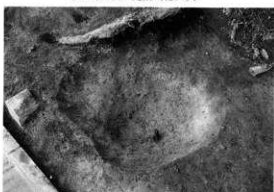
D1号土坑 セクション (東より)



D1号土坑 完掘 (北より)



D2号土坑 セクション (東より)



D2号土坑 完掘 (東より)



D3号土坑 セクション (東より)



D3号土坑 完掘 (東より)



D4号土坑 セクション (南より)



D4号土坑 セクション (南より)



D4号土坑 完掘 (南より)



D4号土坑 完掘 (西より)



D5号土坑 セクション (南より)



D5号土坑 完掘 (南より)



D6号土坑 セクション (北より)



D6号土坑 完掘 (東より)



D6号土坑 完掘 (南より)



D6号土坑 礎石 (北より)



M1号溝址 セクション (東より)



M1・M4号溝址 完掘 (南より)



M2号溝址 Nトレンチセクション (南より)



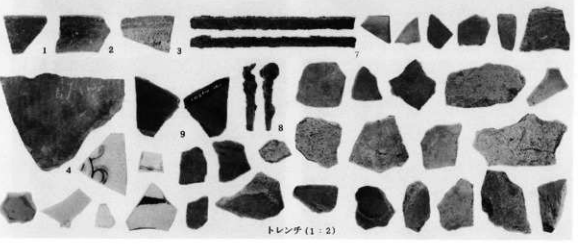
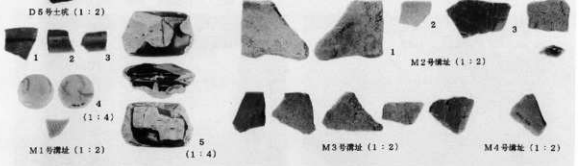
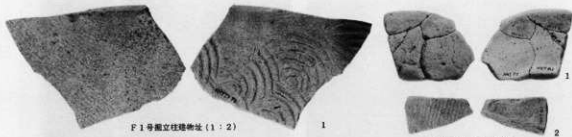
M2号溝址 Sトレンチ完掘 (北より)



M3号溝址 セクション (南より)



M3号溝址 完掘 (南より)



佐久市埋蔵文化財調査報告書

- | | | | |
|------|---|-------|-----------------------|
| 第1集 | 『金井城跡』 | 第58集 | 『下穴遺跡Ⅰ』 |
| 第2集 | 『市内遺跡発掘調査報告書1990』 | 第59集 | 『市内遺跡発掘調査報告書1996』 |
| 第3集 | 『石野宮地群Ⅲ』 | 第60集 | 『宮根遺跡Ⅱ』 |
| 第4集 | 『大木け』 | 第61集 | 『割地遺跡』 |
| 第5集 | 『立科F遺跡』 | 第62集 | 『野馬久保遺跡Ⅱ』 |
| 第6集 | 『上宮根遺跡』 | 第63集 | 『西久保遺跡Ⅱ』 |
| 第7集 | 『一貫相遺跡』 | 第64集 | 『栗の木遺跡Ⅳ』 |
| 第8集 | 『轟の下の遺跡』 | 第65集 | 『中宮遺跡』 |
| 第9集 | 『国道141号線関係遺跡』 | 第66集 | 『中西ノ久保遺跡Ⅱ 中川遺跡 寺畑遺跡Ⅱ』 |
| 第10集 | 『聖原遺跡Ⅱ』 | 第67集 | 『供養塚遺跡』 |
| 第11集 | 『赤塚外遺跡』 | 第68集 | 『前橋前遺跡』 |
| 第12集 | 『若宮遺跡Ⅱ』 | 第69集 | 『高山遺跡Ⅰ・Ⅱ』 |
| 第13集 | 『上高山遺跡Ⅱ』 | 第70集 | 『関立堂遺跡』 |
| 第14集 | 『栗毛坂遺跡』 | 第71集 | 『市内遺跡発掘調査報告書1997』 |
| 第15集 | 『野馬久保遺跡』 | 第72集 | 『市道遺跡Ⅱ』 |
| 第16集 | 『行草城跡』 | 第73集 | 『西一本柳遺跡Ⅳ・Ⅴ』 |
| 第17集 | 『市内遺跡発掘調査報告書1991』
(1月～3月)』 | 第74集 | 『八里田遺跡Ⅱ』 |
| 第18集 | 『西宮根遺跡』 | 第75集 | 『八風田遺跡Ⅱ』 |
| 第19集 | 『上芝宮遺跡』 | 第76集 | 『南近津』 |
| 第20集 | 『下平端遺跡Ⅲ』 | 第77集 | 『香原前遺跡』 |
| 第21集 | 『金井城跡Ⅲ』 | 第78集 | 『蛇塚遺跡・蛇塚古墳』 |
| 第22集 | 『市内遺跡発掘調査報告書1991』 | 第79集 | 『四ツ塚遺跡Ⅱ』 |
| 第23集 | 『南1中塚・南下中塚遺跡』 | 第80集 | 『四ツ塚遺跡Ⅱ』 |
| 第24集 | 『上壱塚遺跡』 | 第81集 | 『榮部寺遺跡』 |
| 第25集 | 『上久保ⅡⅣ』 | 第82集 | 『市内遺跡発掘調査報告書1998』 |
| 第26集 | 『藤塚古墳群・藤塚Ⅱ』 | 第83集 | 『下壱塚遺跡Ⅳ』 |
| 第27集 | 『上久保ⅡⅢ』 | 第84集 | 『稲名平遺跡』 |
| 第28集 | 『宮根新堀Ⅴ』 | 第85集 | 『藤立遺跡』 |
| 第29集 | 『西村遺跡B 山法師遺跡B』 | 第86集 | 『市内遺跡発掘調査報告書1999』 |
| 第30集 | 『市内遺跡発掘調査報告書1992』 | 第87集 | 『宮根遺跡』 |
| 第31集 | 『山法師遺跡A 西村遺跡A』 | 第88集 | 『ト曾根遺跡』 |
| 第32集 | 『東ノ野』 | 第89集 | 『川原塚遺跡』 |
| 第33集 | 『聖原遺跡Ⅶ 下曾根遺跡Ⅰ』 | 第90集 | 『栗の木遺跡』 |
| 第34集 | 『西一本柳遺跡Ⅰ』 | 第91集 | 『西一本柳遺跡Ⅴ・Ⅵ・中長塚・松の木遺跡』 |
| 第35集 | 『市内遺跡発掘調査報告書1993』 | 第92集 | 『辻の前遺跡Ⅱ・中川田遺跡Ⅱ』 |
| 第36集 | 『蛇塚B遺跡Ⅲ』 | 第93集 | 『久志Ⅱ遺跡』 |
| 第37集 | 『西一本柳遺跡Ⅱ 中西ノ久保遺跡Ⅰ』 | 第94集 | 『宮石遺跡』 |
| 第38集 | 『南下中塚遺跡Ⅱ』 | 第95集 | 『市内遺跡発掘調査報告書2000』 |
| 第39集 | 『中屋敷遺跡』 | 第96集 | 『上木戸遺跡』 |
| 第40集 | 『寺畑遺跡』 | 第97集 | 『久彌寺遺跡』 |
| 第41集 | 『宮根新堀遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ
上久保ⅡⅣ遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ
西宮根遺跡Ⅱ・Ⅲ』 | 第98集 | 『窪塚Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ』 |
| 第42集 | 『青山』 | 第99集 | 『川原塚遺跡』 |
| 第43集 | 『桂原平遺跡 池端遺跡』 | 第100集 | 『野原寺遺跡Ⅰ』 |
| 第44集 | 『寺浜遺跡』 | 第101集 | 『花柳遺跡Ⅰ』 |
| 第45集 | 『市内遺跡発掘調査報告書1994』 | 第102集 | 『中近津遺跡Ⅳ』 |
| 第46集 | 『瀧り遺跡』 | 第103集 | 『埋蔵 一第1分冊一』 |
| 第47集 | 『上芝宮遺跡Ⅴ』 | 第104集 | 『埋蔵遺跡Ⅱ』 |
| 第48集 | 『池端城跡』 | 第105集 | 『宮根城遺跡Ⅲ』 |
| 第49集 | 『根々井芝宮遺跡』 | 第106集 | 『稲科遺跡Ⅱ』 |
| 第50集 | 『藤塚遺跡Ⅲ』 | 第107集 | 『龍塚 第2分冊一』 |
| 第51集 | 『寺中遺跡 中屋敷遺跡Ⅱ』 | 第108集 | 『市内遺跡発掘調査報告書2001』 |
| 第52集 | 『坪の内遺跡』 | 第109集 | 『西一本柳遺跡Ⅳ』 |
| 第53集 | 『内正坊遺跡Ⅱ』 | 第110集 | 『佐久駅周辺1地区調査整理事業』 |
| 第54集 | 『市内遺跡発掘調査報告書1995』 | 第111集 | 『Fノ城遺跡』 |
| 第55集 | 『香原前遺跡Ⅰ・Ⅱ』 | 第112集 | 『西本庄遺跡』 |
| 第56集 | 『聖原遺跡Ⅷ』 | 第113集 | 『西一本柳遺跡Ⅳ』 |
| 第57集 | 『高師町遺跡Ⅱ』 | 第114集 | 『沼倉塚遺跡Ⅱ』 |
| | | 第115集 | 『埋蔵 一第3分冊一』 |
| | | 第116集 | 『東久保遺跡Ⅱ』 |
| | | 第117集 | 『東五里田遺跡』 |

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第118集

東近津遺跡

一長野県佐久市長土呂東近津遺跡発掘調査報告書一

2004年3月

編集・発行 佐久市教育委員会

〒385-8501 長野県佐久市大字中込3056

文化財課

〒385-0006 長野県佐久市大字志賀5953

TEL 0267-68-7321

印刷所

株式会社コックス

〒385-0062 長野県佐久市樹下4051 11